

病害虫発生予察指導情報（追加情報）

（ナシ・黒星病 No.2）

令和3年7月9日

鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

7月上旬現在、ナシ黒星病の発生量が増加した園が認められています。特に‘新甘泉’や‘幸水’等では、この時期の感染により収穫果被害が助長されるため、防除対策を徹底する必要があります。

2. 情報の根拠

- (1) 6月中旬に実施した県内13地点の巡回調査の結果、果そう葉および果実における平均発病率は平年に比べてやや高かった。
- (2) ‘新甘泉’、‘王秋’および‘幸水’の果実は7月上～中旬頃まで黒星病に対する果実感受性が高い。
- (3) 7月上旬に連続降雨が認められ、黒星病の感染に好適な条件となっている。
- (4) これまでの気象条件、発生状況及び向こう1か月の気象予報（7月8日発表）から、平年に比べてやや多い発生量が予想される。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 発病した葉や果実（図1）は伝染源となる。定期的に園内を見廻り、発病部位は見つけ次第切除して園外処分する。
- (2) 赤ナシの有袋栽培では、袋掛け直前に必ず薬剤散布を行って速やかに袋掛けを行う。未だ袋掛けを実施していない園では、早めに袋掛けを終える。
- (3) 現在の発生量が多い園では、防除効果が高いDMI剤（アンビルフロアブル1, 500倍液、スコア顆粒水和剤4, 000倍液など）を追加散布する。DMI剤耐性菌の発達を避けるため、これらの剤の散布時には保護殺菌剤（ベルコートフロアブル1, 500倍液、チウラムフロアブル（チオノックフロアブルまたはトレノックスフロアブル）500倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル）1, 000倍液など）を混用する。
- (4) 連続降雨により防除時期を逸する可能性があるため、雨の合間をみて定期防除を行う。また、降雨量が多い場合は追加散布を検討する。追加散布薬剤は上記（3）の薬剤に加えて、オキシラン水和剤600倍液、ベルコートフロアブル1, 500倍液、有機銅フロアブル（キノンドーフロアブルまたはドキリンフロアブル）1, 000倍液などがある。



図1 ナシ黒星病の病斑